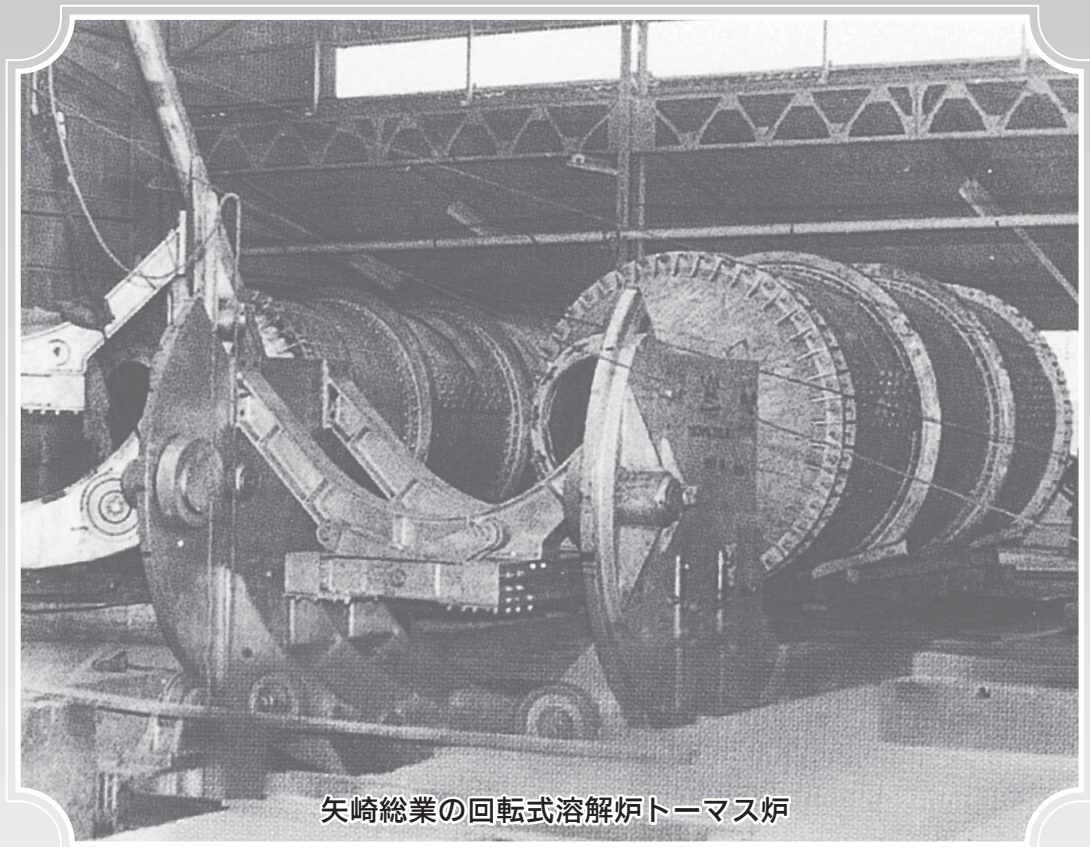


「モノづくりは、人づくり」



矢崎総業の回転式溶解炉トーマス炉

矢崎総業の前身である矢崎電線工業では、昭和32年、自動車用ワイヤハーネスに使用するビニル電線を溶銅から一貫生産するため、回転式溶解炉トーマス炉の導入を決めました。トーマス炉は、古銅を原料とすることができ、使用済み製品を再資源化することができる画期的なものでした。

これは「もったいない精神」に根ざした、ものを大切にする創業者である矢崎貞美の志と合致するものでした。

しかし、このトーマス炉の導入に際し、創業者はとんでもないことを命じます。何と、導入直前に、現在稼働している反射炉の取り壊しを命じたのです。もうあと戻りはできません。工場のみならず、関連各社にまで緊張が走りました。

創業者の強い決意と期待に応えるべく、社員一丸となって取り組みましたが、溶銅でのトーマス炉導入は国内でも類がなく困難の連続でした。日夜の試行錯誤が続きました。

そして、ついに稼働に漕ぎつけたのです。トーマス炉導入により、生産量は飛躍的に増え、品質も格段に向上しました。トーマス炉導入は今日の矢崎グループの礎を築いた出来事でした。

◆内容◆

- 1 巻頭言 アイシン精機(株)専務役員 高橋清一 氏
- 2 中部品質管理推進研究会の活動報告
- 3 協会だより (第1回中部“質創造”マネジメント大会)

『グローバルに活躍できる品質に強い人材づくり』

アイシン精機株式会社
専務役員 高橋 清一



21世紀に入ってから、日本の企業を取り巻く環境は激変している。リーマンショックや欧州の経済危機や、東日本大震災、タイの大洪水などの自然災害に加え、新興国の台頭など、世界の産業の勢力図が大きく変化している。日本でも20世紀には世界の優良企業として名を知られていた企業が、今や企業の存続そのものが危ぶまれている。

このような環境の中で、弊社はアイシングループビジョン2020を制定し、『かけがえのないグローバルパートナー』と呼ばれる企業グループをめざすとした。2014年までを基盤構築期として、アイシングループ一丸となって取り組んでいる。

グローバルという視点では、弊社も新興国市場への拡大を重点としている。しかし、業界はますます激化することが予想され、グローバル競争に勝ち抜き、『かけがえのないグローバルパートナー』と呼ばれるためには、創業以来継承してきた、「品質至上」の基本理念のもと、TQMの柱である、「お客様第一」「絶え間ない改善」「全員参加」を愚直に実践し、品質管理のレベルを1ランクアップさせることが重要であり、それを支える「品質に強い人材育成」をスピード感をもって進めていくことが必要である。

弊社では、新入社員教育や昇格前後の教育には、品質知識教育やSQC、信頼性教育などの教育を体系化するとともに、管理職には、マネジメント教育としてMAST教育を導入、実施している。このMAST教育は、今年度から、海外法人の現地人経営層にも展開をはじめた。また、現場の第一線で活躍する管理、監督者を対象に、本社地区にグローバル実践場を設置し、品質、安全、生産(TPS)などの教育を実施する環境も整備してきた。このグローバル実践場では、海外生産会社の現地人管理、監督者も受け入れ、本社で教育した後、現地での実践状況までフォローしている。

全社の活動としては、グローバルA-CF(AISIN Customer First)委員会を立ち上げ、地域別に品質課題を共有し、早期解決活動をグローバルに展開するとともに、社内では、一人ひとりの品質意識の高揚をねらった品質特別活動を企画し、品質フォーラムや品質宣言、全社「Qの日」の設定などの諸活動を展開している。

世界中のお客様に満足していただける商品を提供し続けるには、図面品質の向上や工程保証度の向上はもちろん重要であるが、それを支える人づくりが最も大切であり、これこそが海外の追従を許さない日本のモノづくりの強みであると考えている。

経営者から現場の第一線のメンバーまで、全員が常に品質に高い関心を持ち、お客様第一を考えて仕事をする風土を構築することができれば、どのような環境変化が起きようとも、それを克服し、『かけがえのないグローバルパートナー』になることができると信じている。

中部品質管理協会主催『中部品質管理推進研究会』活動報告

【研究会概要】本研究会は、

- ① 中部品質管理協会会員会社の
- ② 品質管理活動の社内推進役となる

主に 20 代～40 代のメンバーの方々で構成され、品質管理活動推進上で悩みを共有し、その解決策の検討を通して品質管理の専門家になっていただくことを目指し活動しています。

目的	経営目標の達成に貢献する品質管理推進方法の研究
期間	第1期:2012年9月～2013年8月 (2年間)
内容	メンバーが自主的にテーマを選定 ・品質管理手法の教え方 →講師マニュアル ・品質管理推進方法→現場の品質意識把握向上ツール
メンバー	13社14名(20代～40代中心)



【第1期活動報告】

2011/9～から開始した第1期活動は、13社*から参加いただいた14名のメンバーが自社で抱える問題の研究を相互研鑽で行い、

- 1) 講師マニュアル(品質管理手法の教え方)
- 2) 現場の品質意識の把握と向上ツール
(品質管理推進方法)

ご参考：第1期研究会参加企業（ABC順）

ブラザー工業(株)、中央精機(株)、古河AS(株)、フタバ産業(株)、イイダ産業(株)、小島プレス工業(株)、三菱電機(株)名古屋製作所、万能工業(株)、日本ガイシ(株)、オーエスジー(株)、大橋鉄工(株)、リンナイ(株)、CKD(株)

という2つの自社内活動だけでは得られない研究成果を上げ、自社へのフィードバックを図っていただくことができました。

また、「現場の品質意識の把握と向上ツール」については、本年8月の品質管理学会中部支部事例発表会でメンバーによって発表されます。

【第2期研究会への入会のお勧め】

これまで、品質管理は製品の品質向上に大きく貢献してきました。これからも厳しいグローバル競争に勝ち残っていくためには品質管理の推進が必須ではないでしょうか。しかし、団塊世代の大量退職により、品質管理を担う専門家が少なくなってきており、個々の企業単独での育成は時間がかかります。

社内品質管理推進専門家育成の場として、中部品質管理推進研究会はお役に立てると思います。

こんなお悩みありませんか？

品質問題が多発するが解決できない

対策を徹底させるしくみが弱く、問題が再発する

実践・アドバイスできる品質管理の専門家がない

異業種交流により問題解決法を勉強させたい



研究会と聞くと難しいというイメージを持たれると思いますが、研究会は、品質管理活動推進上の悩みをメンバーで共有し、その解決策を考えていくものです。テーマもリニューアルし、2013年9月から2年間の第2期活動(2013/9～2015/8)を開始します。入会ご案内を同封させていただきますので、社内品質管理推進キーマン育成のための相互研鑽の場として、中部品質管理推進研究会の活用をご検討いただければ幸いです。

10月23日第1回中部「質創造」マネジメント大会を開催予定!

日本規格協会とはじめて共催し、標記大会を開催します。中部地区で「品質・標準化」を推進する2団体が、「中部から新たな質の創造・発信」を念頭に、地区企業の皆様へ提言する大会です。ぜひ、奮ってご参加・聴講下さい。

第I部：標準化と品質管理中部地区大会2013

<特別講演> 経済産業省 産業技術環境局

<講演> 三菱航空機(株)執行役員 MRJ チーフエンジニア 岸 信夫氏

第II部：中部マネジメント大会2013

<特別講演> 一橋大学名誉教授 野中郁次郎氏

<基調講演> 黒川建築デザイン代表 黒川雅之氏

<講演> JR 東海(株)執行役員リニア開発本部副本部長 寺井 元昭氏

日 時：2013年10月23日(水) 10:00～16:45 会 場：ウインクあいち

furuyaの品質SAIKOU

「日常業務」と「日常管理」

日本品質管理学会(以下、学会)は、今年の5月に学会規格「日常管理の指針」を制定した。学会として日常管理の重要性を多くの企業、組織に発信したということに意義がある。実際、日常管理(SDCAサイクル)の理解はさまざまだ。特に、「日常業務」と「日常管理」の違いを説明することは難しい。どちらも普段当たり前に使っている言葉のため、同じ意味合いで用いられてしまうことが多い。

例えば営業部門では、新規顧客への訪問、販促イベントの開催、代金回収など、さまざまな業務があるが、一般的には業務の標準化は困難とされている。実際は少なからず標準(取り決め)があるはずなのだが…。また多くの組織では、仕事のプロセスが定められている。それぞれが、「品質は工程でつくり込む(自工程完結)」「プロセス保証」を目指して取り組んでいる。こうしたことをより効果的・効率的に行う管理のシステムこそが日常管理なのであるが、そのように認識している人は少ない。多くの人にとって、日常の業務は認識できても、日常管理が意識されることはあまりないのである。

「標準なくして改善なし」と言われるように、日常管理はすべての基本である。多くの企業、組織が、本規格を活用して、日常管理を一層充実、徹底させることで、パフォーマンスレベルの維持向上を図り、持続的成長を実現されることを願っている。筆者も、本規格の制定に携わった一人として、その実現は密かな喜びとするところである。

なお、学会では本規格の講習会を以下のとおり計画している。多くの方が日常管理への理解を深めていただければ幸いです。

・日時：9月18日(水)13:00～17:00 ・会場：(財)日本科学技術連盟本部(千駄ヶ谷)

【編集後記】 今年も早くも梅雨明けし、七夕も晴れでしたが、皆様はどんな願い事をされたでしょうか。参議院選も終了し、政治のねじれがやっと解消することで、政治・経済・国際情勢等々、様々なことが前向きに改善されてゆくことを祈りたいと思います。

(発行元)

中部品質管理協会

〒450-0001 名古屋市中村区那古野1丁目47-1 名古屋国際センタービル11階

TEL (052) 581-9841 FAX (052) 565-1205

<http://www.cjqca.com>